

＜ もくじ ＞	
1. 2024年度連続講座第3回の結果報告	1
2. 2024年度研究会合同イベントの開催案内	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 各研究会の概要報告	3
5. 事務局からのお知らせとお願い	6

## 1. 2024年度連続講座「長寿時代を生き抜く知恵 Part3」第3回(12/7)の結果報告

### ■第3回のテーマ：「天国へのお引越し～遺品整理のはなし」

- 1) 日時：12月7日(土) 14:00～16:00
- 2) 講師：吉田 太一(シニア社会学会会員 株式会社キーパーズ代表取締役)
- 3) 参加人数：会場19名、オンライン8名(会員18名、非会員9名)計27名

#### ＜概要報告＞

##### 「いつまでも自発的に自主的に」

先日の講演会でも少し触れましたが、これから益々 ”おひとりさま” がスタンダードな社会になっていくことは明確だと思います。

そうなってくると、今までは家族という単位での生活スタイルが当たり前であったことが当たり前ではなくなるのです。

このような時代のなか、現在の高齢者はどのような意識をもって生きていけばいいのでしょうか。

一般的になにも努力しなければ高齢になればなるほど人間関係が減少していきます。なぜなら高齢になればなるほど、周囲もその方に気を使って連絡を取らなくなっていく傾向があるのです。

ですので、人間関係は意識して保つ努力をしなくてはなりません。この努力をしないで、会話のできる友達が減少してしまうと、とても危険ですので毎日話しの出来る人間関係作りと、そのための会話のネタを自ら意識して収集してもらいたいです。

本当に人間はある程度の頻度で会話をしておかないと、コミュニケーション力は低下してしまいます。そして、徐々に会話することに抵抗を感じてしまい、自ら拒否反応を起こしてしまう方がとてもたくさんいます。そうなってくると、他人との会話する時間が年間に10分も無いことが当たり前になってしまい、誰も受け入れられなくなってしまいます。そして社会から孤立した状態となり、一般的な社会コミュニティに参加して生きていくことは困難になります。

きつい言い方かもしれませんが、社会福祉がパンク寸前の現在、ここまでいってしまうと救いたくても救えないと思います。ですので、高齢者になってもなる前から自ら自発的に自主的に声を出して複数の方々に声をかけ人間関係を維持するようにしてください。

いつか人は亡くなりますが、亡くなるまでは生きるしかないので。

せっかく生きているのですから、最期まで本当の一人ぼっちにならないために毎日会話のできる友達を大切にしたいと思うのです。

(吉田太一 記)



以下、参加者の感想の一部を、アンケート回答よりご紹介します。

- \*亡くなられた方の整理を心をこめて仕事をされていることに感銘しました。(70歳代、女性)
- \*「孤立死」のDVDの内容が大変ショッキングでしたが、今後の親や地域との向き合い方について改めて考えるきっかけになりました。ありがとうございました。(50歳代、男性)
- \*家族の縮小、少子化、地域コミュニティの喪失という時代背景が進む中、自身の死の準備が必要な時代になった事を痛感した。以前は、自分が死んだらそれまでの事、後は残されたものに託すと簡単に考えていたが、具体的な事は何も考えていなかった。(70歳代、男性)
- \*「孤立死」という言葉とお話は、ひとり暮らし(おひとりさま)の私にとって他人事ではなく身につまされるテーマでありました。今後「孤立死」しない様に心がけたいと思います。(80歳代、男性)
- \*孤立をどのように避けるか考えなければと…、強く思いました。間近なので…(80歳代、女性)
- \*DVDがとても考えさせられる内容でした。また、「一人用の商品が増えている」というお話も興味深かったです。(40歳代)

## 2. 2024年度研究会合同イベント(シンポジウム形式)開催案内

本年度の最後のイベントは例年3月に行われる研究会合同イベントです。今年は、社会保障研究会主催で「認知症ケア」の問題を扱います。認知症の原因はかならずしも一つではなく、その症状に陥る原因も機会もさまざまです。しかし現代社会では少子高齢化が進行し、老々介護が当たり前のようになりました。しかも多くの高齢者が社会とのつながりが希薄化し孤立化していくなかで、自らの社会の中での役割を見失いがちです。

その状況を背景に、認知症ケアにも現在の時代にあった手法が実践されつつあり、「ナラティブアプローチ」もその一つです。そこで今回は社会学およびジェロントロジーの研究者であり、本テーマに関する著書もある荒井浩道さんに基調講演をお願いし、具体的な実践者であるお二人の方にパネリストとしてお話をいただく予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- 開催日時：2025年3月22日(土) 14:00~16:00
  - 開催主体：社会保障研究会
  - 開催場所：ちよだプラットフォーム402会議室
  - プログラム
    1. 基調講演：「ものがたりとしての認知症ケア～ナラティブ・アプローチ～」  
講演者：荒井浩道(当学会理事、駒澤大学教授)
    2. パネルディスカッション  
パネリスト：下村達郎(香念寺住職)※寺院での介護者カフェ運営  
上野美知子(Coもれび主宰)※ケアラー支援として都会で森林浴  
コメンテーター：袖井孝子(当学会会長)
- ※ お申し込みは、次号で添付するチラシに掲載いたします。

## 3. 研究会からのお知らせ

### (1) 第102回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年12月19日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：『「金子みすゞ」の詩歌に、コミュニティを思う』  
発表者：島村 健次郎
- 4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願い致します。

## (2) 第57回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年12月20日（金） 17:30～19:30
- 2) テーマ：年金のお話
- 3) 報告者：山本恵子 社会保険労務士 研究会メンバー

※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。

## (3) 第51回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年12月21日（土） 18:30～20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：YNS やまぶき任意後見、アワーズ、学会員
- 4) テーマ：認知症とともに生きる

寸劇を取り入れて具体的にわかりやすくします。

### 劇団 「B笑座」 びしょうざ

認知症を可視化し、できるだけわかりやすくします。人形劇、寸劇など劇団員募集しています。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

## (4) 第56回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年2月5日（水） 15:00～17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 報告者：安田育生
- 4) 概 要：ICT 利活用に関すること

※参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

## 4. 各研究会の概要報告

### (1) 第166回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2024年11月20日（水） 18:00～20:00
- 2) 報告者：長瀬晴信（ヤマト運輸株式会社グリーン物流事業部推進部 課長）
- 3) テーマ：「ヤマトグループの長寿化社会に対する取り組み～高齢者支援に関する実践例」
- 4) 参加人数：15名

ヤマト運輸は1919年に創業。経営理念は、社会的インフラとしての宅配ネットワークや生活関連サービスを通して豊かな社会を実現することである。安全安心の暮らしを実現するために、自治体と連携して見守り、防災、防犯、交通安全教育、広報紙の配布、観光支援、文化発信などを行っている。

超高齢社会への取り組みとしては、ネコサポステーションと高齢者の見守りサービスがあげられる。前者は、団地や駅前に拠点を設け、生活相談や有償の買い物支援・家事サポートを行う一方、住民の活動の場として活用している。地域包括支援センターと協力して認知症カフェを開催することもある。

見守りは、全国的なネットワークを利用して、高齢者の孤立を防ぐことを狙いとする。月額1780円でハローライトを室内やトイレに設置し、24時間つけっぱなしの時には、家族や友人にメールが行く。依頼があれば、訪問し安否確認をする。入居時にこのシステムを取り入れる賃貸アパートもあり、不動産会社にとっても、借り手の安否確認ができるという点でメリットがある。

宅配業に特化していると思われるヤマトの多彩な活動には、参加者から驚きと賞賛の声があり、地域包括支援センターと連携してもっと活動を広げてほしい、ネコサポステーションを介護家族の交流の場や子育て支援・子どもの居場所として活用してほしいなどの要望があげられた。報告者からは、本業と社会貢献とを両立させることやサービスを体系化することの難しさが語られた。

（袖井孝子 記）

## (2) 第101回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年11月21日（木） 15:00~17:30
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：私論「シニアの社会参加の意味と意義」  
発表者：安田 和紘

安田さんには前回に引き続いて、「社会参加」に関連する「私論『シニアの社会参加の意味と意義』」とのテーマで発表いただいた。問題意識として、シニアの社会参加は避けて通れない課題であること。発表は配付レポートに沿って行われたが、1. 日本は超高齢社会であることを、各種データで提示。2. 超高齢社会がもたらす問題点では、4点の問題点を列記。3. 解決策としての「シニアの社会参加」に関しては、複眼の視点で考察することが大切であるとし、①社会参加の基本 ②行政の視点からみた意義 ③シニアの視点からみた意義 ④社会の視点からみた意義について解説された。4. シニアの社会参加の実際には、ご自身が居住し活動している「あざみ野団地」の社会参加事例を紹介された。シニア住民の社会参加効果はあるものの、一番の問題は、個人情報の「壁」であり、人に弱みは見せたくないという「恥の文化」が存在していること。そして最後に、シニアの社会参加で考えておくべきポイントを、シニアを一括りにしないこと。シニアは不揃い統一体である。など7項目を列記された。

濱口座長はコメントとして、シニアという言葉が高齢社会の構成員を指す言葉として登場して以来、この言葉の根拠について論議することは無くなり、定着しているように思われるが、残る1点は権利関係であると述べられ、憲法第25条と第27条を読み解くことにより、論じられた。そして、歴史は動く。コミュニティという用語についてもこうした歴史的視点から解釈すると、この言葉の持つ内容について考えておくべき背景があるという指摘をされた。（島村健次郎 記）

## (3) 第49回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2024年11月23日（土） 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）
- 4) テーマ：認知症とともに生きる（鈴木眞澄 記）

## (4) 第56回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年11月23日（土） 16:30~18:30 Zoom開催
- 2) 報告者：中村昌子 長谷川洋（研究会メンバー） ※参加者：5名
- 3) タイトル：読書会「夜と霧」みすず書房）ヴィクトール・E・フランクル 著

みすず書房の代名詞とも言える「夜と霧」の日本語版は旧訳と新訳がある。原著の初版は1947年、日本語版の初版は1956年、故・霜山徳爾氏が訳したもので、「解説」⇒本文⇒最後にショッキングな「写真函版」の3要素からなるパッケージだ。その後、フランクル自身が手を加え1977年に改訂版を出版し、日本では2002年に新訳として刊行され、訳者は池田香代子氏である。旧版にあった「解説」と「写真函版」は取り除かれた。以下、参加者のコメントを反映した、この本の要点の抜粋を記す。

本書は、「希望」が人間にとってどれほど重要なものであるかを教えてくれる。生きる望みも少なく、生きる目的も奪われた状況において、生還した人々はなぜ生き延びることができたのだろうか。

生きる意味についての問いを180度方向転換すること、「私たちが生きることから何を期待するかではなく、むしろひたすら、生きることが私たちから何を期待しているのかか問題なのだ。生きることの問いに正しく答える義務、生きることが各人に課す課題を粛々と果たしていくこと」とフランクルは言う。

収容所生活の究極の悲惨な状況下、苦悩の極みにおいてこそ、人間の精神は真に高められていく。

「苦しみ尽くさねばならない」状況下、どのような態度をとるか、そこにどのように存在するか、その存在の仕方によって実現する精神的自由だけは、如何なる劣悪な環境でも奪い取られることはなかったと著者は語る。重い内容にも関わらず、読み終えると曇天に一筋の光が差し込むような清涼感がこの本にはある。参加者と共に、「読書会だからこそ、難解な本を読み終えた良い機会だった」と意見が一致した。 (中村昌子 記)

### (5) 第73回「災害と地域社会」研究会概要報告

- 1) 開催日時：2024年 11月27日(水) 18:00~20:00
- 2) 開催場所：早稲田大学 26号館 1102会議室(対面とZoomのハイフレックス開催)
- 3) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」、当学会「災害と地域社会」研究会共催
- 4) 報告者：手塚明美(認定NPO 法人藤沢市民活動推進機構理事長)
- 5) テーマ：「できることをできるときに～神奈川県における情報共有会議に向けて～」

報告概要：手塚明美さんは、神奈川県藤沢市を中心に、行政・企業・地域組織の間を繋ぐ中間支援団体としての活動を長年続けておられる。その過程で、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、能登半島地震・大雨洪水被害で現場を訪れた経験を踏まえて、また内閣府の動きにも参加し触れられながら、神奈川県内の各種団体とのコーディネーションのあり方を探ってこられた。災害復興支援のあり方は、災害の種類と時間的フェーズが変われば被災者ニーズも変わることから各種の団体の必要な支援やかかわり方も変わってくる。

神奈川県では、災害フェーズの変化つまり、発災時・応急時におけるボランティア支援の軸となる団体、中長期的視点から被災者の暮らし支援の軸となる団体とを仕分けして、後者の軸となる組織として、2020年に「災害復興暮らし応援・みんなのネットワークかながわ」(通称：みんな)準備会を立ち上げ勉強会を始めて今日に至っている。とくに、市町村ネットワーク、地域ブロックネットワーク、県域ネットワークというように、すべてのレベルの団体を横につなぎながら縦の連携を図っていくための会合や図上訓練を続けてきた。その成果として行政をも交えて「神奈川県被災者支援機関連絡会議規約」をつくったことが紹介され、参加者からも多くの関心が寄せられ質疑応答が繰り返された。 (長田攻一 記)

### (6) 第74回「災害と地域社会」研究会の概要報告

- 1) 開催日時：2024年 12月11日(水) 18:00~20:00
- 2) 開催場所：早稲田大学 26号館 1102会議室(対面とZoomのハイフレックス開催)
- 3) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」、当学会「災害と地域社会」研究会共催
- 4) 報告者：(現地調査に参加された方々より話題提供いただきました)
- 5) テーマ：「11/23,24に実施した能登半島巡検の振り返り」

報告概要：早稲田大学や専修大学の教員、および防災計画研究所など能登半島被災地域の調査に携わっている研究員の方々が、11月23、24日に輪島朝市、珠洲市下出地区、能登町の復興に向けてとくに重要な活動をしている方々にインタビューした結果を報告された。浅川さんが全体の行程と概要を説明され、続けて輪島朝市ピースボートの人に話を聞いた人の報告書を紹介。ピースボートは、東日本大震災や他の被災地域で支援された経験から、行政機能が失われた地域で、行政職員と他のボランティア団体や住民の間をかなり細かく調整する知識や技能を持って支援していることから多くを学んだという。次に、珠洲市の下出地区では、東日本大震災の津波で多くの死者を出した大槌町安渡地区の教訓と地区防災計画づくりに関わった研究員(第72回吉川さん報告参照)が支援に入り、地区防災計画づくりの過程と避難訓練の様子とその効果について報告された。最後に、能登町では地震で自ら大けがを負い子息を亡くしながら地域の復興に努力する40代の住民に伺った内容報告があった。能登の各地域には異なる状況と背景があり、能登町では海側と山側で異なる文化のもとで生活をする193ある集落を中心に、各集落のニーズに合わせた支援と復興の考え方が必要であることが報告された。また、1月の地震被害からようやく復興の目途がついた

9月にまた豪雨災害に遭って誰もが先が見えなくなったことは、どの報告でも共通であった。ピースポルトへの地震への寄付は1億円、水害への寄付は百数十万円、ジャパンプラットフォームへの寄付は、地震13億円、水害3千万円という。  
(長田攻一 記)

### (7) 第55回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年12月11日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 報告者：森嶋由紀子
- 4) テーマ：「人生100年時代のリテラシー」にICT関連を加えてご報告 つづき
- 5) 概 要：【森嶋さんの資料に沿って報告】

#### 1. 「若い」のイメージと適応ー老年社会学から

- ・「活動理論」vs「離脱理論」、「社会情緒的選択理論」などが話題となった。
- ・エリクソンの人生の第9段階「老年の越境」(90歳以上)、マズローの欲求階層説(欲求5段階説)の6層目「自己越境の欲求」、一度提唱して評価されていても、自身が高齢期になって更に追加することへの驚き。
- ・以前も言われていたが、これからの高齢者は今までの高齢者と違う。ICTが道具として使えることで、個別対応が可能になる。⇒高齢者だけでなく、社会全体について考えられる。
- ・思想的な集まりのコミュニティづくりが少なくなっているのではないか。
- ・「産まれた土地と居住地が変わっている人」と「産まれた時から同じ土地にいる人」では暮らし方が全く違っている。
- ・地縁や血縁は薄れている。人とのかかわりを持ちながらどう生きていくか。⇒ICTの可能性

#### 2. 「若い」の社会的位置づけー日本の高齢者福祉政策から

- ・住んでいる団地での経験からは、「助けて」と言える環境を作ることが重要。
- ・地域包括支援センターと自主的繋がりづくりをしている。

(森やす子 記)

## 5. 事務局からのお知らせとお願い

### <会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報(氏名・住所・メールアドレス等)に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

なお、2024年12月25日(水)~2025年1月6日(月)は休業させていただきます。

### <2025年1月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第305号の発行日は、2025年1月22日(水)です。原稿をお寄せ下さる方は、1月17日(金)までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21  
ちよだプラットフォームスクウェア1037  
eメール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL：<http://www.jaas.jp/>